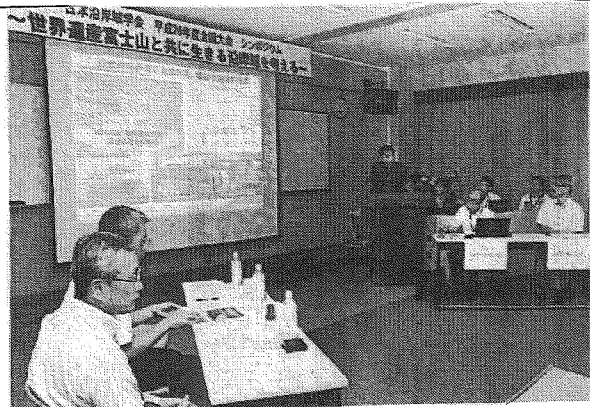


平成26年(2014年)7月27日(日曜日)



物流・観光、海岸保全、漁業の視点で意見発表した  
パネル討論

＝静岡市清水区の東海大清水キャンパス

# 駿河湾沿岸在り方探る

## 清水区 学会が全国大会

望ましい沿岸域の在り方を研究する日本沿岸域学会(会長・磯部雅彦高知工科大副学長)の本年度全国大会が25、26の両日、静岡市清水区の東海大清水キャンパスで開かれた。26日には「世界遺産富士山とともに生き

る沿岸域を考える」と題した一般公開シンポジウムを行い、駿河湾沿岸の活用と防災に関する意見交換した。

このうち西園局長は、清水港について「世界遺産を間近に望む日本で唯一、かつ一番の美港。世界を意識してクルーズ客船を誘致し、観光交流を拡大させたい」と述べた。

砂防局長、田中平八県漁運専務理事の3氏が意見発表した。

ファシリテーターの田中博通東海大海洋学部教授は「防災、観光、水産業など各分野の取り組みを進める前提として、明確な思想を持つことが必要」と指摘した。

杉保局長は三保海岸の景観改善と養浜を両立させる保全計画を紹介した上で、「諸課題を克服し、全国に発信できる海岸保全のモデルにしたい」と話した。

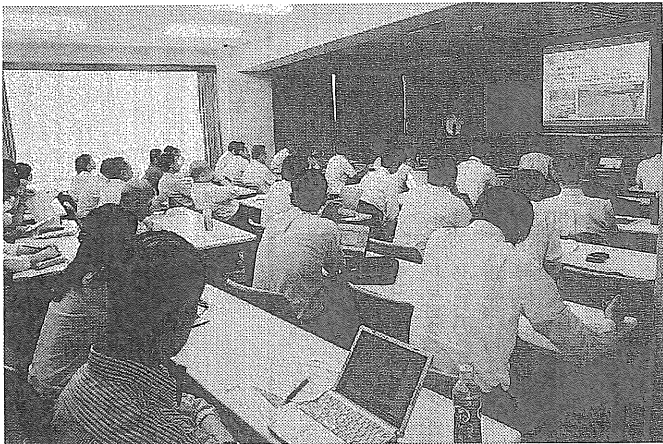
# 日本沿岸域学会が全国大会を

## 清水で盛大に開催 7/25~26

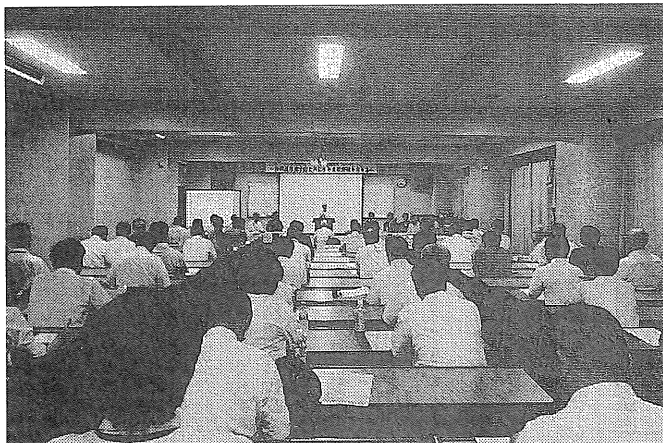


磯部会長

日本沿岸域学会(会長||磯部雅彦高知工科大学副学長)は東海大学海洋学部と共催で、7月25日(金)~26日(土)に静岡県静岡市清水区(旧)の東海大学海洋学部(清水キャンパス)8号館3・4階で「世界遺産富士山と共に生きる沿岸域を考える」のテーマで平成26年度全国大会【静岡】を開催した。後援は国土交通省中部地方整備局、静岡県、静岡市。



日本沿岸域学会研究討論会の模様



日本沿岸域学会シンポジウムの模様

た。日本各地の沿岸域は一律でなく個性的、魅力的である。この沿岸域に関心を抱く産官学のあらゆる分野の人々が相集まり、望ましい沿岸域を創出するための研究・討論を行い、その成果を広く社会に還元することを目的としている。

7月25日(金)は午前9時から、研究討論会を行い、15のテーマ別セッションで73名が講演をし、それぞれの会場で討論を行った。各セッションの内容は、①歴史・歴史的建造物と津波被災など、②漂着物・環境汚染、③利用・沿岸域管理、④物理・海浜変形、⑤防災、⑥沿岸利用・環境活動、⑦利用・沿岸域管理、⑧海洋再生可能エネルギー、⑨防災(構造・施工)、⑩生態系・水産、⑪利用・復興・事業手法等、⑫物理・数値シミュレーション、⑬防災・環境・生物、⑭環境・景观・政策と幅広く、沿岸域に関する多岐の分野にわたる内容である。

④平成26年度学会賞(敬称略)  
論文賞||今村和志、青木伸一「砂浜の環境がアカウミガメの上陸・産卵行動特性に及ぼす影響」豊橋・湖西海岸の事例より  
論文賞||浅井正、小田勝也「廃棄物海面処分場の早期安定化がコスト構造の改善に与える効果に関する検討」

出版・文化賞||出版物「日本漁業の制度分析」漁業管理と生態系保全(2) 勝彦  
出版・文化賞||出版物「日」

授||コンテナー||磯部会長  
◆パネラー||西園勝秀(静岡県交通基盤部港湾局長) 長(港湾・物流等)、杉保聡(静岡県交通基盤部河川砂防局局長(海岸侵食)) 田中平八(静岡県漁業協同組合連合会専務理事(漁業))  
午後は、現地視察「世界遺産富士山と共に生きる沿岸域を考える」を行った。昨年、三保松原は、世界文化遺産「富士山」信仰の対象と芸術の源泉」の構成遺産のひとつとして登録された。しかし、登録後の観光交流人口の急激な増加に伴い、三保松原の自然環境保全と観光振興のバランス、海岸保全や松林の保全管理、景観改善の課題があり、その解決が急がれている。午後1時に東海大学海洋学部を卒業し三保松原の現状を視察後、日本平から口「ブウエ」で国宝久能山東照宮を拝観して、大会は成功裏に終了した。

出版・文化賞||出版物「日本漁業の制度分析」漁業管理と生態系保全(2) 勝彦  
出版・文化賞||出版物「日」

出版・文化賞||出版物「日本漁業の制度分析」漁業管理と生態系保全(2) 勝彦  
出版・文化賞||出版物「日」

出版・文化賞||出版物「日本漁業の制度分析」漁業管理と生態系保全(2) 勝彦  
出版・文化賞||出版物「日」